

令和7年度島根県立大学短期大学部
学校推薦型・総合型選抜 社会人 帰国生 私費外国人留学生特別選抜
文化情報学科 小論文問題
出題意図

令和6年11月実施

出題意図

文化情報学科では、「日本と海外諸地域における文化と社会に関する様々な事象に対して興味・関心を有している人」、「地域が抱える社会的・文化的諸課題を共感をもって理解し、その解決に向けて地域の多様な人びとと協働する意欲と態度を有している人」を、求める学生像のひとつとしている。

課題文には、ミツユビナマケモノの知られざる生態が描かれているが、そこからいったい彼らは何のために生きているのかという疑問が浮かんでくる。またそのようなミツユビナマケモノの生き方を見て、そこにどんな意味があるのだろうと考えもするだろう。一見して意味がないようなものに、何らかの意味や目的を見いだそうとする姿勢は、文化情報学科で主体的に学ぶうえで必要である。また課題文をきっかけに、果たして自分は何のために学ぶのか、あらためて振り返ることも大切である。

本出題では、ミツユビナマケモノの生き方やその意味について、課題文の趣旨を理解したうえで自身の考えを加味して的確にまとめる力、身近な例に引きつけながら学びの意味や目的を追求し、それらを適切に述べる力を評価する。

以上